

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：12102

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2020

課題番号：16KK0022

研究課題名（和文）紀元前二千年紀後半のアッシリア領土統治における多様性の解明：地方王国マリ国の研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Diversity in Assyrian territorial governance in the late second Millennium B.C.: A study of the local kingdom of Mari.(Fostering Joint International Research)

研究代表者

柴田 大輔 (Shibata, Daisuke)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：40553293

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

渡航期間： 13ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、紀元前2千年紀後半にアッシリア王国の勢力下で一定の自治を保っていた地方国家マリ王国の統治システム、マリ王国とアッシュル中央政府との関係、マリ王国とアッシリア行政州との相違点を明らかにし、さらにその歴史の変遷も明確にした。これによって、従来の研究では画一的に考えられてきたアッシリア王国の領土統治が有していた多様性を鮮明にした。研究は、シリア北東部のテル・タバン遺跡において日本隊が発見した楔形文字文書を主要史料にしており、そこから得られるデータを他の遺跡に由来する文書と付き合わせ、それら他遺跡の文書の研究に従事する研究者と協働することによって進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

紀元前2千年紀後半のアッシリアの研究に従事する専門家との打ち合わせを重ね、さらにそれら研究者ほぼ全員を集めて国際ワークショップを開催することにより、この分野の専門家の有機的な研究ネットワークを構築することに成功した。また、古代西アジア研究分野における世界有数の研究拠点であるハイデルベルク大学とミュンヘン大学との連携体制を整え、国内の筑波大学側では西アジア文明研究センターを建設することによって、古代西アジア研究に従事する国際的な研究プラットフォームを構築した。

研究成果の概要（英文）：The present research focused on the local kingdom of Mari, a client state that maintained a certain degree of autonomy within the Assyrian territory in the late second millennium BC, examining its system of governance. In particular, the research investigated the relationship between the kingdom of Mari and the central government of Assur, the differences between the kingdom of Mari and the Assyrian provinces, and their historical transitions, thereby highlighting the diversity of territorial governance by the kingdom of Assyria at that time.

研究分野：楔形文字学・古代西アジア史学

キーワード：楔形文字 アッカド語 アッシリア ハブール川 粘土板文書

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費基盤研究(C)の研究課題「前二千年紀後半アッシリアにおける地方王国マリ国の歴史学的研究」(以下、基課題と略称)の終了を受けて実施した。基課題と本研究の核となるテル・タバンの遺跡出土文書は、1997～1999年と2005～2010年に国士舘大学の調査によって出土した、日本の発掘隊が初めて発見した大量楔形文字文書である。合計約450点の文書のうち420点が紀元前二千年紀後半に由来する。その内容は、アッシリア王国領土内に位置し、テル・タバンの遺跡にあった古代都市タベトゥを首都にした地方の小国家マリ王国の在地君主の記念碑文と同国の行政記録だった。通説では、紀元前二千年紀後半のアッシリア王国は獲得した領土の全てを行政州化し、各行政州には中央政府から知事を派遣して統治していた、と考えられてきた。しかし、マリ王国はアッシリア王国に臣従しつつも行政州にはならず、一定の自治を保っていたことが解明され、アッシリア領土統治の多様性に光が当てられた。そこで、本研究ではアッシリア領土統治における多様性の解明に傾注した。

2. 研究の目的

本研究によって解明を試みる課題は次の通り。(1)マリ王国における統治体制の諸相。(2)アッシュル中央政府との関係。(3)同時代のアッシリア行政州における統治体制との相違点。(4)当時のアッシリア王国による領土統治が有していた多様性とその歴史の変遷。

3. 研究の方法

研究が立脚する主要史料は、テル・タバンの遺跡から発見された楔形文字文書であるが、さらに、他の遺跡に由来する楔形文字文書や考古遺物を渉猟し、諸史料から得られる情報を相互に検討しながら研究をすすめる。テル・タバンの遺跡から発見された多種多様な文書の中には、マリ王族が関与した商取引に関する契約書などの私的法文書、宗主国であるアッシリア王国が隣国と行なっていた外交や戦争に関連する記録、マリ王国において祀られていた神々とそのローカルな祭儀伝統に関する記録、さらには、古代メソポタミア世界で継承されていた学知の伝統に帰属する著作の写本も含まれる。こういった文書を他の遺跡から出土した関連文書と比較検討することにより、マリ王国とアッシリア王国の統治体制に関するいくつかの具体的な論点をとりあげ、それぞれの論点に着目しながら、研究を推進する。

論点は次の通り。法制度：マリ王族の私的法文書を同時代のアッシリア私的法文書と比較することにより、まず文書の書式・語彙・外的形状などの形式上の共通性と特異性を明確にする。さらに法文書に記録されている契約形態について検討する。マリ王家と地域住民との関係：マリ王族の私的法文書、あるいは行政記録はマリ王国領内における住民とマリ王家の関係についても情報を提供する。これを手掛かりにしながら、王家と地域住民の関係を明確にする。アッシリア王国の外交：アッシリア王国の外交に際してマリ王国・王族が果たしていた役割について検討する。特に西方のヒッタイト帝国との外交に主眼が置かれる。祭儀伝統：マリ王国におけるローカルな祭儀伝統の様相を整理し、さらにその歴史的な系譜を明らかにし、アッシリア行政州の状況と比較する。学知の伝統：テル・タバンの遺跡から出土した著作の写本を、他の遺跡から出土した同作品の写本と比較しながら、当時のアッシリア・バビロニアにおける学知の伝統における当該作品の編纂過程を詳かにし、さらに学知の伝統の形成においてアッシリア首都アッシュル、アッシリア行政州、そしてマリ王国の学者が果たした役割について考察する。歴史の変遷：アッシリア王国とマリ王国に関する事件史的政治史に留意しながら、統治制度の形成と衰退の歴史の変遷過程を明確にする。特に、紀元前11世紀前半ごろに始まるアラム系季節遊牧部族の都市襲撃による領土統治体制の衰退と崩壊のプロセスを明らかにする。これらの課題に関する研究は、他の文書の研究に取り組む国内外の共同研究者と協働で推進される。共同研究は、一つの課題について一緒に検討するセミナー、参加者による研究発表を中心としたワークショップを軸にしており、研究打ち合わせを重ねながらすすめる。特に2017年度にはハイデルベルク大学とミュンヘン大学を拠点にして、集中的にこれを実施する。

4. 研究成果

期間中に実施した長期・短期の在外研究ならびに国内における研究により、次の成果を得た。

個別研究

テル・タバンの文書、そして他の楔形文字文書や考古遺物から得られる情報を手掛かりにして、紀元前二千年紀後半のアッシリアに関する様々な問題の研究に取り組んだ。その成果は、まず国際アッシリア学会などの国際会議において発表し、さらに個別英語論文にまとめて出版した。主だった研究は次の通り:(1)アッシリア・ヒッタイトの外交とそこでのマリ国の役割に関する研究。研究成果は共同研究者の一人であるN. Postgate氏の献呈論集において発表した。(2)マリ王国における王族の法文書の特性的研究、法制度に関する同時代のアッシリアとの比較研究。

研究成果は共同研究者の一人である H. Freydank 氏の献呈論集において発表した。(3) マリ国における神々の伝統に関する包括的な研究。研究成果は共同研究者の一人である D. Charpin 氏の献呈論集において発表した。(4) アッシリアとマリ国における暦制度に関する研究。研究成果は後述する古代メソポタミアの暦に関する論文集にまとめた。(5) アッシリアとマリ国における医術書の伝統に関する研究。研究成果は 2018 年 7 月にインスブルック大学において開催された国際アッシリア学会で発表したあと、英語論文にまとめた(近刊)。(6) 紀元前 11 世紀におけるアラム系の武装季節遊牧民によるアッシリアとマリ国の侵略過程に関する研究。研究成果は後述する 2019 年 7 月の国際ワークショップにおいて発表したあと、英語論文にまとめた(近刊)。

オクスフォード古代近東史

2017 年度後半に長期滞在を行なったミュンヘン大学の教授である共同研究者の一人 K. Radner 氏が 5 巻本の Oxford History of Ancient Near East の編者の一人になり、私も、第 4 巻における紀元前 11～9 世紀アッシリア史のチャプターを担当することになった。その原稿(約 2 万 5 千ワード)を帰国後に仕上げ、提出した(現在校正中。2022 年に出版予定)。本チャプターでは、特に紀元前 11 世紀にはじまるアッシリアの一時的な衰退、そして紀元前 10 世紀後半に始まる王国再建のプロセスに重点を置きながら、この時代におけるアッシリアの政治・社会・文化を包括的に論述した。このチャプターを準備する過程では、紀元前 11 世紀前半のクロノロジーに関する重要な新知見を得ることも出来た。

論文集編纂

関連するテーマを扱った英文・和文の論文集を編纂し、出版した。論文集の主題は古代メソポタミアにおける暦(英文)、西アジアにおける政教関係(和文)、一神教(和文)。暦に関する論集は筑波大学の山田重郎氏、政教関係に関する論集は甲南大学の中町信孝氏、一神教に関する論集は同志社大学の勝又悦子氏らと取り組んだ。

国際会議のオーガナイズ

2017 年度の長期ドイツ滞在中に共同研究者の一人である J. J. de Ridder 氏(イエーナ大学)と紀元前 2 千年紀後半アッシリアに関する包括的な研究ワークショップを企画し、2019 年 7 月にパリで開催された国際アッシリア学会の枠内において、Current Research in Middle Assyrian と題した国際ワークショップをオーガナイズした。ワークショップでは、オーガナイザーの他、ベルリン自由大学の E. Cancik-Kirschbaum 氏やバルセロナ大学の J. Llop 氏、ハイデルベルク大学の B. Faist 氏などの合計 11 名の専門家が集まり、研究発表を行なった。相次ぐ新史料の発見と体系的な史料公刊により、中期アッシリア研究は目覚ましい進展を遂げているが、この中期アッシリア研究の進展をまとめる国際ワークショップは 2010 年(バルセロナ)と 2014 年(ワルシャワ)における開催の後、滞っていた。本ワークショップでは、現在中期アッシリア研究を推進する主たる中核研究者を集め、この時代の政治・社会・文化・言語に関する研究課題の現状を総括するとともに、今後の研究への展望を議論できた。

講演・セミナー

ほか、2017 年度におけるドイツ長期滞在中には、滞在先だったハイデルベルク大学とミュンヘン大学のほか、ヴュルツブルク大学、ベルリン自由大学において招待講演を依頼され、本研究の成果の一端についてそれぞれ講演した。ミュンヘン大学とヴュルツブルク大学においては研究セミナーも開催した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 62
2. 論文標題 書評：日本昭男（訳）、司修（画）、『新装版：ギルガメシュ王の物語』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 143-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Shibata	4. 巻 80
2. 論文標題 Review of Beate Pongratz-Leisten, Religion and Ideology in Assyria	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 128-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0041977X17000076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Daisuke Shibata; Shigeo Yamada
2. 発表標題 The Building Inscriptions of Assur-ketta-lesir II, "King of the Land of Mari", in the Late Middle Assyrian Period: Their Historical Implications
3. 学会等名 Workshop: "Current Research in Middle Assyrian" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 前10～9世紀におけるアッシリアのシャフリゾール征服プロセス
3. 学会等名 研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 デヴィッド・ソフェル・コレクション所蔵テル・タバンの資料と前12・11世紀におけるアラム人・カルデア人問題
3. 学会等名 第62回シュメール研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 テル・タバンの出土アッシュル・ケタ・レシル2世の記念碑文とその歴史的背景
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テペ遺跡の調査成果から」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 バビロニア・アッシリア薬物治療文書「アダバの処方箋」：編集・発展・受容
3. 学会等名 第61回シュメール研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 A Middle Assyrian Manuscript of a Therapeutic Treatise: 'Prescriptions of Adapa'
3. 学会等名 64th Rencontre Assyriologique Internationale (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 古代メソポタミアの王権：神々、王、知識人
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会 / 第321回公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 古代メソポタミアにおける「一神教」的神学
3. 学会等名 研究会「ユダヤ教の諸相とその周辺」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 Ein mittelassyrisches Exemplar des therapeutischen Texts aus Tell Taban: Zur babylonisch-assyrischen Gelehrsamkeit in einem kleinen lokalen Koenigreich im spaeten 2. Jt. v. Chr.
3. 学会等名 Assur und Assyrien - Neue Funde und Forschungen（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 Das lokale Koenigreich Land Mari in der mittelassyrischen Zeit: Dynastie, Schreibpraxis, Goetterkult, Kalender und Ende des lokalen Koenigreiches
3. 学会等名 Julius Maximilians University of Wuerzburg（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 A Middle Assyrian Manuscript of “Prescriptions of Adapa”
3. 学会等名 Julius Maximilians University of Wuerzburg (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 The Local Kingdom of Land of Mari during the Middle Assyrian Period: Dynasty, Cult and Scholarship
3. 学会等名 Ludwig Maximilian University of Munich (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 Das lokale Koenigreich Land Mari in der mittelassyrischen Zeit: Dynastie, Kult und Gelehrsamkeit
3. 学会等名 Free University of Berlin (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Shibata
2. 発表標題 A Cylinder Inscription of Ashur-ketta-leshir II
3. 学会等名 Ludwig Maximilian University of Munich (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 古代メソポタミアの王権：神々、王、知識人
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会 / 第321回公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 ティグラトピレセル1世治世におけるアッシリア暦・バビロニア暦の併記（Doppeldatierung）とブロークン・オベリスク
3. 学会等名 第63回シュメール研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 ブロークン・オベリスクの王：アッシュル・ベール・カラカ、ティグラトピレセル一世か
3. 学会等名 日本オリエント学会第62回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Daisuke Shibata (分担執筆、D. Prechel他編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Zaphon	5. 総ページ数 492
3. 書名 Beitraege zur Kenntnis und Deutung altorientalischer Archivalien: Festschrift fuer Helmut Freydank zum 80. Geburtstag	

1. 著者名 柴田大輔 (分担執筆、柴田大輔他編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 423
3. 書名 一神教世界の中のユダヤ教	

1. 著者名 Hirotoshi Numoto, Daisuke Shibata, Shigeo Yamada (分担執筆、J. A. Massih他編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Archaeopress	5. 総ページ数 452
3. 書名 Archaeological Explorations in Syria 2000-2011	

1. 著者名 Daisuke Shibata (分担執筆、G. Chambon他編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Peeters	5. 総ページ数 1264
3. 書名 De l'argile au numerique: Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin	

1. 著者名 柴田大輔 (分担執筆、Y. Heffron他編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Eisenbrauns	5. 総ページ数 811
3. 書名 At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate	

1. 著者名 柴田大輔 (分担執筆、柴田大輔・中町信孝編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 396
3. 書名 イスラームは特殊か：西アジアの宗教と政治の系譜	

1. 著者名 Daisuke Shibata (分担執筆、D. Shibata他編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Harrassowitz Verlag	5. 総ページ数 未定
3. 書名 Calendars and Festivals in Mesopotamia in the Third and Second Millennia BC	

1. 著者名 Daisuke Shibata	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Harrassowitz Verlag	5. 総ページ数 未定
3. 書名 Su' ila: Die sumerischen Handerhebungsgebete aus dem Repertoire des Klagesaengers	

1. 著者名 柴田大輔 (分担執筆、伊藤邦武他編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 世界哲学史 1 古代 1 知恵から愛知へ	

1. 著者名 柴田大輔 (分担執筆、吉澤誠一郎他編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 未定
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 Daisuke Shibata (分担執筆、K. Radner他編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 未定
3. 書名 Oxford History of the Ancient Near East Volume 4	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	サラベルガー ワルター (Sallaberger Walther)	ミュンヘン大学・Institut fuer Assyriologie und Hethitologie・Professor	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	マウル シュテファン (Maul Stefan)	ハイデルベルク大学・Seminar fuer Sprachen und Kulturen des Vorderen Orients・Professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Workshop: Current Research in Middle Assyrian	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ドイツ	ハイデルベルク大学	ミュンヘン大学	